

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立桜が丘特別支援学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒264-0017
千葉県千葉市若葉区加曽利町 1538
E-mail sakuragaoka-sh@chiba-c.ed.jp
Website http://www.chiba-c.ed.jp/chibapref-sakuragaoka-sh/
幼児児童生徒数 男子 93名 女子 76名 合計 169名
児童・生徒の年齢 6歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では【ユネスコスクールの理念に基づき「つたえること、つながること、ひろがること」の活動をとおして共生社会の実現を目指す】ことを重点目標に設定している。各教科領域等、道徳教育、キャリア教育、交流学习、防災学習などすでに本校で取り組んでいる様々な学習が、ESDに当てはまると考え、「つながり」をキーワードとし、活動を「学校内でのつながり」、「地域とのつながり」、「他校とのつながり」、「社会や学校外とのつながり」の4つに整理している。

桜が丘特別支援学校のESD



①学校内でのつながり（人や物とのつながり）

「つながり」の第一歩は友達や先生、家族など自分の身近な人とのかかわりやつながりを大切にすること、そして、自分の生活している環境、身の周りの物とのかかわりを大切にすることである。と考え、友達と関わる場面を多く設定したり、人前で発表する活動を多く設定したりしている。様々な人とのかかわりを通して、人とのつながりの大切さ、友達と協力することの大切さを実感することができている。



①生徒会が中心となって取り組んだ
あいさつ運動

②地域とのつながり

運動会や文化祭だけでなく、学校の様々な行事を地域の方に知っていただき、本校の周辺地域とのつながりを大切にしている。小学部6年生では、本校の近隣にある加曽利貝塚からボランティアに来ていただき、火おこし体験を行った。

体験を通して、児童が昔の生活について知ることができたり、地域の方に本校のことを知っていただいたりすることができた。地域の方々とのかかわりを大切にし、様々な活動を児童生徒達が主体的に考え、実行している。



②加曽利貝塚のボランティアさんと
火おこし体験

③他校とのつながり

小学部・中学部・高等部それぞれが、本校の近隣にある桜木小学校、加曽利中学校、市原八幡高等学校、若松高等学校との交流学习を定期的に行っている。同年代の児童生徒とスポーツや音楽をしたり、ディベートをしたりして、お互いにより刺激を受け合っている。また、サスティナブルスクールとして、県内外のユネスコスクールとの交流学习にも取り組んでいる。



③市原八幡高等学校との交流学习で
のポリバットピンポンの様子

④社会や学校外とのつながり

学校外や社会、海外とのつながりをもつことで、多くの人と関わるができるだけでなく、さらに広い視野で物事をとらえたり考えたりすることができる。と考え、学校外での児童生徒の活躍の機会を多くもてるようにしている。スポーツ大会に参加したり、給食で「世界のごはん」を実施し、「食」を通して海外とのかかわりをもったりすることで、「持続可能な社会の構築」「共生社会の構築」に目を向け考えるきっかけになっている。



④給食「世界のごはん」
～タンザニア料理～

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(生徒会活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の重点目標のひとつに『ユネスコスクールの理念に基づき、「つたえ、つながり、ひろげる」活動をとおして共生社会の実現を目指す。（安心で安全な防災体制の構築）』と設定し、全校で取り組んでいる。この目標をもとに、ESDの取り組みを、全学年、全課程、各教科で横断的に行っている。「つながり」をESDの取り組みのキーワードとし、各教科でそれらに基づいて学習を進めるようにしている。授業としては、小学部の生活単元学習で「土で遊ぼう～友達や自然とのつながり～」の授業を行うなど、生活単元学習、総合的な学習の時間、自立活動、特別活動の中で行うことが多い。キーワードを設定することで、教員だけでなく児童生徒にとっても、本校のESDの取り組みのねらいについて分かりやすくなり、学校全体でESDに取り組みやすくなった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体でESDに取り組む、より活動を深めていくことをねらいに、ESDの分掌の人数構成を工夫した。全体チーフのもと、小学部、中学部、高等部に3人ずつ配置し、訪問部、寄宿部、自立活動部にも1人ずつ配置し、計13人の職員で行った。各学部・部室にESD担当がいることで、活動をスムーズに行うことができたり、情報共有をしやすくなったりしている。

分掌は、ホールスクール担当、サステイナブルスクール担当を設け、それぞれの取り組みを分担することでESDの活動に学校全体で取り組む体制を整えている。会議で全体が集まる場を利用して、教員が参加した研修報告等を行い、学校全体での情報共有を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、児童生徒、保護者、教員を対象に実施される学校評価アンケートの項目にESDの取り組みについての質問を設けている。ESDの取り組みについて校内で広まりつつあるが、児童生徒、保護者、教員への理解啓発をさらに深めていけるよう、発信し続けていく。ユネスコスクールと認定されてから3年目の29年度に、これまでの取り組みをまとめ、第8回ESD大賞に応募したところ「ユネスコスクール最優秀賞」を受賞することができた。本校の活動が認められ、さらなる活躍を期待されていると感じる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

千葉大学 ESD 成果報告会に 3 年間参加し続けた生徒が、「この学校に来て、様々な経験を通して人とのつながりの大切さを学んだ」と語っていた。他校の高校生と話し合う場面でも積極的に自分の意見を発言したり、ESD (未来につなぐ教育) 部会で知り合った友達の文化祭に行き交流を深めたりするなど、自分から人とかわろうとする姿が見られるようになった。

校内に ESD 掲示板のコーナーを設け、常時活動を掲示することで児童生徒、保護者、教職員、来校者が目にするようにした。各学部、学級で取り組んだ活動を ESD の視点で掲示物にまとめることで、日頃の学習を見直し、校内の ESD に対する取り組みへの関心、意識が高めることにつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など) (200字程度)

学校周辺自治会、市役所職員、本校職員が集まり、避難所開設訓練を実施した。千葉県防災備蓄倉庫の点検、HUG を用いた避難所想定、近隣企業から寄贈していただいた炊き出し釜を使用して、炊き出し訓練等を実施し、意見交換をした。校内で行った避難訓練や起震車体験だけではなく、地域の自治体と協力して防災教育に取り組み始めている。

ESD (未来につなぐ教育) 部会でつながった企業から、ローズマリーとツリーの木を寄贈して頂き、授業で活用した。企業の方に本校に来校して頂き、学校の様子を見て頂くことで、「つながり」の広がりを感じた。

※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

サステナブルスクールの取り組みとして、29 年度から本校小学部は宮城県米谷市米谷小学校と、中学部は大阪府箕面こどもの森学園との交流学习を行っている。1 年目である今年は、自己紹介カードを交換や合同作品作りを行った。次年度以降も、体育や音楽などを通して交流を深めていく計画である。高等部は千葉県の ESD (未来につなぐ教育) 部会の活動で、県内のユネスコスクールに認定された高等学校の生徒や、ASEAN からの留学生との交流を行うことができた。本校での ESD の取り組みを発信することで、国内のユネスコスクール同士のつながりや世界へのつながりと、人とのかわりを広げることができつつある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

生徒会長の「人とのつながりはあいさつから」という言葉から、あいさつ運動の強化週間を始めるなど、児童生徒自身のできることが増え、自信につながっている。また、他者と関わることや学習環境を広げることで、興味関心の幅や視野が広がったり、コミュニケーションスキルが高まったりした。生徒自身が「桜が丘のESD＝つながり、共生社会の構築」ということを理解し、自分たちにできることを実行しようという態度が育まれてきている。

また、サステナブルスクールとしての活動や機関包括型アプローチプロジェクトが今年度から始まり、各学部でのESDの広がりが見られ、ESDの視点で学習を捉えることができる教員が増えつつある。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

引き続き【「つたえること、つながること、ひろがること」の活動をおおして共生社会の実現を目指す】をスローガンとし、4つの「つながり」を柱として取り組んでいく。各教科領域、道徳教育、キャリア学習、交流学習、防災教育などすでに本校で取り組んでいる様々な学習を、「つながり」「共生社会の構築」という本校のESDの視点で捉え、ユネスコスクールとしての実践として、外部に「発信する」ということに学校全体で取り組む。

サステナブルスクールとしては「つながろう 桜が丘から 地域へ 世界へ そして未来へと」をスローガンとし、小学部は宮城県米谷市米谷小学校、中学部は大阪府こどもの森学園との交流に引き続き取り組んでいく。また、高等部はESD（未来につなぐ教育）部に参加し、県内のユネスコスクールとの交流を深めていく。

機関包括型アプローチプロジェクトでは、本校のESDの目標である「共生社会の構築」を達成するために、防災教育に重点を置き、気候変動・環境教育と関連させながら活動を行う。児童生徒の学習だけでなく、地域の方と協力して避難訓練を行うなど、今後も活動を通してつながりを広げていきたい。また、学校HPを通して各学部の取り組みを定期的に紹介していきたい。